



あなたを幻想的な夜にいざないます

葦山竹灯籠まつり

入場無料

- とき／11月19日(土)、20日(日) 16:45～20:30 (入場は20:00まで)
- ※雨天・強風時は中止
- ところ／江川邸
- ※葦山駅からシャトルバスを随時運行します。(16:10～)
- 観覧コースは舗装されていません。足元は竹灯籠の灯りだけで薄暗くなっています。歩きやすく滑りにくい靴でお越しく下さい。
- 指定の場所、指定の時間帯以外での写真撮影はご遠慮ください。
- 一脚、三脚を利用した写真撮影は20:00以降です。
- ☎市役所農業商工課 ☎0558-76-8003

図書館だより

今月のおすすめ ～短歌・俳句・川柳～

季節を感じたり、言葉を吟味したり、視点を変えたり…。始めてみれば、毎日が少し楽しくなることでしょう。



『短歌の作り方、教えてください』 俵万智、一青窈(著)

1年半にわたる往復メールによるマンツーマンレッスン。短歌初体験の一青窈は、自曲の作詞も手掛ける歌手。俵の助言でだんだんと上達し、自分らしさを出せるようになっていく。 【葦山】



『俳句、はじめました』 岸本葉子(著)

人気エッセイストが悩み、驚き、笑い、学んだ怒涛の日々。初心者の早とちりも勘違いもそのままに綴った俳句入門エッセイ。続巻「吟行修行の巻」も。 【中央】

■学校で会いましょう

図書館は、子どもたちの来館を待っているだけではありません。市内の学校・幼稚園などに司書が出向いて、読み聞かせなどの活動を行っています。子どもたちが本と出会い、親しむ機会を増やすために、多くの小学校、幼稚園、保育園にご協力いただいています。



図書館カレンダー
モバイル版QRコード

- 『親子で楽しむ短歌・俳句塾』岩越富雄(著) 【葦山】
- 『偶然短歌』いなにわ、せきしろ(著) 【中央】
- 『夏井いつきの超カンタン! 俳句塾』夏井いつき(著) 【中央】
- 『一億人のための辞世の句』西坪内稔典(選著) 【葦山】
- 『川柳入門一だれでも楽しく詠める上達のコツ 50』杉山昌善(監修) 【葦山】
- 『マネー川柳一鏡見てサイフも覗く試着室』オリックス(編) 【中央】

11月の 休館日	中央図書館 3日(木・祝)、7日(月)、14日(月)、21日(月)、23日(水・祝)、25日(金)、28日(月)	葦山図書館 2日(水)、4日(金)、9日(水)、16日(水)、23日(水・祝)、24日(木)、25日(金)、30日(水)
	あやめ会館 12日、26日 14:00～	19日 10:30～

図書館ホームページ <http://www.izunokuni.library-town.com/> ☎中央図書館 ☎0558-76-5566

■11月のおはなし会

※いずれも土曜日

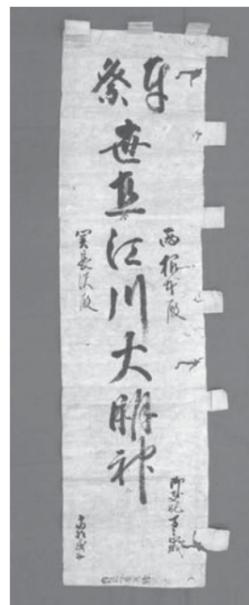
- 中央図書館 12日 11:00～
- 葦山図書館 12日、26日 14:00～
- あやめ会館 19日 10:30～

文化財通信

その137

江川文庫所蔵資料の保存修理(その3)

市役所文化財課
☎055-948-1428



「世直江川大明神」紙職(修理前)
これまで紹介したものに比べ、比較的損傷度は高くないものの、あちこ

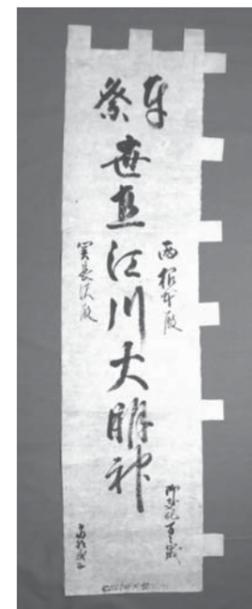
「奉祭 世直江川大明神 御支配万々歳」。これは、代官として甲斐国(現山梨県)都留郡を治めていた江川坦庵公を称えて、天保10年(1839)、土地の寺院(注1)の門前に立てられた紙職の文言です。江戸時代、支配される側の農民たちが、支配する側の代官を「神」に祀ったという事例(注2)は、ないわけではありませんが、なかなか珍しいことです。

天保4年(1833)に始まる天保の飢饉と、それに端を発した大規模な一揆(郡内騒動)によって荒廃していた甲斐国都留郡の統治を幕府に命じられた坦庵公。着任前に、自ら刀の行商人に身をやつして現地を視察(甲州微行)するなど、正確な情報を得たうえで、的確な政策を立案します。

着任後は、自らはもちろん、部下

たちにも公正さと質素節約を徹底させつつ政策を実行していくことで、人々の信頼を獲得するとともに、疲弊した村々の復興を成し遂げました。長年にわたって飢饉や役人の不正に悩まされてきた都留郡の人々にとって、坦庵公は、まさに「救いの神」のように見えたのかもしれない。

さて、民政に尽力した坦庵公の功績を物語る貴重な資料であるこの紙職も、重要文化財葦山代官江川家関係資料に含まれています。公益財団法人江川文庫では、8月号の(その1)、9月号の(その2)で紹介した冊子や絵画などとともに、この紙職にも保存修理を施しました。他の資料と同様、保存修理は高い技術を持つ専門の工房で行われました。



「世直江川大明神」紙職(修理後)

ちに虫損による穴があり、何度も折り畳まれたことによる折れ筋や、染みによる変色が見られました。また、職という形態上、本紙の外側に飛び出している乳(竿を通すための環状の部分)が、特に傷んでいました。

工房では、慎重に紙質や繊維の状態を調べ、染み抜き、虫損の繕いなどの補修作業を行いました。それにより、この紙職は、都留郡の寺院前に立てられていた、180年近く前の姿を取り戻すことができたのです。

(注1) 現山梨県都留市にある宝鏡寺。

(注2) 武蔵野新田の開発や木曾三川の治水で知られる代官、川崎定孝(1694～1767)は、治績をあげた各地で神社に祀られている。